



—東地中海地域ニュース—

トルコ：エルゲネコン捜査に抗議するデモ集会の開催等 (4月19日-20日付現地紙)

1. 18日、首都アンカラのアタテュルク廟に11万人規模の大規模集会が行われた。同集会は、ハベルアル・バシュケント大学学長及びサイラン現代的生活支援協会（CYDD）会長を含む大学関係者及び知識人40名余りが、今月13日に行われたエルゲネコン捜査によって強制捜査を受け、一部が逮捕されたことへの抗議として実施された。
2. 同集会には、コルクット・エルソイ・バシュケント大学副学長を始め、大学関係者及び学生、オメル・エミナーオール検事判事協会（YARSAV）会長、ハック・スハー・オカイ共和人民党（CHP）院内会派会長、ヌル・セルテル CHP 議員、ビュレント・タヌック・アンカラ市チャンカヤ区長、エサット・クラトルオール元大臣（70年代後半のデミレル政権時）、労働党関係者及び多数の民間団体が参加した。参加者は「我々は、アタテュルク革命の擁護者である」と書かれたポスターを掲げつつ、「トルコは政教分離国家であり続ける」、「学問の世界に捜査の手は伸ばせない」、「エルゲネコンは、米国が造り出した嘘である」、「完全なる独立国トルコは、EUも米国も必要としない」等のスローガンを叫んだ。コルクット・エルソイ・バシュケント大学副学長は、アタテュルク廟の記帳ノートに、「今日は単なる訪問として訪れたのではなく、学問と英知という精神的資産の重要性をうたえるために訪れた。」と記した。
3. （1）エルトゥールル・ギュナイ文化観光大臣は、サイラン CYDD 会長がエルゲネコン捜査で強制捜査を受けたことに対し、「今回の捜査は不快であり、本来の捜査目的から逸れている。サイラン会長のような女性がエルゲネコン組織に関与しているとは考えがたく、今回の捜査は明らかに AKP 政権にとって不利になるだろう。今回の捜査はまるで、70年代クーデター後の左派思想狩りの様相を呈している。エルゲネコン捜査は、トルコの政治史にとって民主主義の基本を確立するために重要な法的プロセスである。その為にも捜査が本来の目的から逸れないことが重要である。」と述べ、エルゲネコン捜査の正当性を疑問視した。  
  
（2）これに対し、ベキル・ボズダー AKP 院内会派会長は「ギュナイ大臣は、エルゲネコン捜査について違った考えを持っているのかもしれない。しかし法的プロセスが続いている中、捜査に影響するような言動をすることは間違っている。」と述べ、ギュナイ大臣を批判した。

## 【補足情報】

### トルコ：エルゲネコン捜査関連報道

- 2008-01-26 トルコ当局は、極右組織エルゲネコン（Ergenekon）のメンバー13人について、反乱を計画したとして起訴。メンバーは、先週逮捕されている。
- 2008-07-03 トルコ現地紙は、逮捕された極右勢力が作成した4ページの行動計画が押収されたと報道。手始めに、7月7日に、各地で不法デモを開始する計画。検察は逮捕されたもの以外も含む40人の起訴を準備しているとされた。
- 2008-07-23 当局は反政府クーデター未遂に関連してエルゲネコンに所属する20名を捜索、拘束した。これまでの逮捕者は86名に上る。
- 2008-09-23 トルコ当局は、エルゲネコン事件関連で、新たに17人を拘束。メディア所有者、学者など。
- 2009-01-07 トルコ警察は、政府の転覆を試みているとされる世俗派への捜査を強化しており、トルコ全土で3名の退役軍人等多数を拘束した。当局による今次拘束は、エルゲネコン捜査の一環であり、ここ1年で10回目となる。
- 2009-01-11 トルコ政府は、イスラム教を重んじる政府の転覆を試みる国粋主義者率いる世俗派集団（エルゲネコン）とのつながりを理由に14名を逮捕した。政府による同様の拘束者数は100名を超えた。
- 2009-01-15 エルゲネコン捜査における容疑者の一人、エルソズ退役陸軍准将がアンカラで拘束された。
- 2009-01-22 トルコ警察は、世俗派による政権転覆の試みに関係していた容疑者を国内30箇所で拘束した。